

大野版DMO設立検討委員会 論点整理（事務局・大野市商工観光振興課）

【前提】

大野版DMO設立検討委員会設置要綱（平成30年4月13日大野市告示第136号）に基づき、観光を産業の柱とするための舵取り役となる大野版DMOの在り方について検討を行う目的で設置

【委員構成】

検討委員会は下記の観光関連事業者・団体から推薦された11名で構成
（一社）大野市観光協会、越前信用金庫、大野観光自動車株式会社、
大野市菓子組合、大野市商店街組合連合会、大野商工会議所、
大野市旅館組合、大野麺類組合、（株）メンテナンスナカムラ、
九頭竜森林組合、テラル越前農業協同組合

【第1回】（平成30年4月27日）

○市長から委員へ委嘱状交付

○市長挨拶

- ・平成20年以降中心市街地の活性化など交流人口の拡大に注力
- ・平成27年に市として初めて観光入込客数が200万人を超えた
- ・特にまちなかの数値が伸び、100万人を数えるまでになった
- ・一方、観光客は増えたが、消費額は伸びていない現状がある
- ・観光戦略ビジョンやブランド戦略でも「稼ぐ力」を掲げている
- ・あと5年で中部縦貫自動車道が県内全線で開通となる
- ・東海、中京方面からの人の流入が期待できる
- ・新たなDMO組織が必要なのか既存組織での取り組みがふさわしいのか含めて、国や県などの指導仰ぎつつ検討していきたい
- ・初めての取組で難しい点もあるが、活発な議論をお願いしたい

○委員長、副委員長挨拶

- ・観光客200万人超が事業者の売上につながらないと実感とならない
- ・「ふふふおおの」など、観光客向けの新たな商品開発の取り組み出てきている
- ・今、事業者同士や各種団体が力を合わせて取り組む時期である
- ・観光関連の各種団体のあり方含めて、危機感持って取り組んでいきたい
- ・大野がみんなに來たいと思ってもらえる場となるよう、笑顔を大切に組み込んでいきたい

○論点1：観光客を取り込んで売上を伸ばすための行動、アイデア

【受け入れ体制】（市民、事業者）

- ・さまざまな手法で営業活動が行われ、多くの方が来られているが、来られた方がっかりしない体制が求められる
（リピーターを大事にする。出来ません、有りませんを無くす努力が必要）
- ・笑顔でおもてなしだけでなく、積極的に声掛けし会話するような姿勢が大事

- ・来られた方との会話を通じて地元の人がある魅力に気づくことが市民の自信につながる
- ・人口（特に若い世代）が急減していくことの危機感を共有していく
- ・事業者の中でやる気あるもの同士が組んで商品開発など行っていく
- ・家族経営など小規模事業者が多い中で連携した仕組みを作っていく

【受け入れ体制】（市関連事業者・団体）

- ・(株)平成大野屋、(一社)大野市観光協会、(株)結のまち越前おおの、(一財)越前おおの農林楽舎など市関連の事業者、大野商工会議所内にある城まつり実行委員会などの団体がそれぞれ観光に関する取り組みを行っているが、設立目的や役割、現状の取り組みなどを比較検討することが必要
また、組織間で事業等の話をして擦り合わせる機会や場所が無い
- ・数多くのイベントが行われているが、事業主体の高齢化や事業のマンネリ化なども見られる。無くしてしまうことはいけませんが、常に変化させ収益性を上げるように動いていくべきではないか
- ・既存組織が動きやすくなるためのスリム化が必要
- ・手数料を支払ってビジネスとして観光を行っていく仕組みづくりが必要
- ・結ステーション周辺に土産物店が少ない

【魅力ある資源・活動】

- ・荒島岳や寺町通りは人気があり、女性グループでの訪問も増えている
- ・名水、新鮮野菜、とんちゃん（ホルモン）などもウリになる
- ・会いに行きたいと印象に残る「人」が重要
- ・若いグループの活動も出てきている
- ・今あるものを、しっかりと磨き上げることも必要

○論点2：DMO専門人材の候補、求められるスキル

- ・市全体をセールスできる人（大野への熱い思いがある人）
- ・市全体をマネジメントできる人でマーケティングできる人
- ・旅行業や旅行企画の経験、宿泊業の経験なども重要
- ・大野出身だとしがらみがあるが、取捨選択は大事であり、それができる人
- ・候補となる人がいるのであれば、事務局まで連絡を（各県人会に当たることも方法である）
- ・よそ者、若者、馬鹿者が地域を変えと言われる側面もある

次回に向けて、委員それぞれが必要な情報収集を行いつつ、メールやSNSで共有。
論点1および論点2を深掘りして、「大野版DMOのカタチ」を探っていく。

次回日程：平成30年5月22日（火）午後1時30分～